



表紙写真/ホエールウォッチング

# CONTENTS

ご覧になれます。

- 1 **くがにくとつば**[黄金言葉] vol.119  
**自分を知ること、  
はじめて他者を理解できる**  
コンサルティング オフィス おおしろ 大城 久美子
- 5 **地域リレーションシップ情報**⑩  
**沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について  
「E3・E10ガソリンと品確法」**
- 6 **けいざい風水**
- 8 **おきぎんカトリアクラブ通信**
- 10 **最近の県内経済の動向**  
2013年11月の県内景況
- 12 **国内景気動向**
- 14 **沖縄マーケティング情報**  
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数  
②世界の中の沖縄(年次)  
③グラフでみる沖縄経済  
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 34 **経済社会のできごと**(沖縄、国内・海外)  
2013年12月
- 36 **各種セミナー等開催インフォメーション**
- 38 **おきぎん調査レポート・バックナンバー**(分野別)
- 42 **ゆがふ編集後記**

おきぎんカトリアクラブ会員の皆様へは「おきぎん調査月報」をインターネットでも公表しております。

<https://cattleya.okinawa-bank.co.jp/index.jsp>

※「おきぎん店舗一覧」につきましては、沖縄銀行ホームページをご参照下さい。

# 自分を知ること、 はじめて他者を理解できる

コンサルティング オフィス おおしろ 大城 久美子



今回は、TA（交流分析）など精神分析を用いた手法で分かりやすく実践的な研修を実施しているコンサルティング オフィス おおしろの大城久美子さんをご紹介します。1980年より人材育成コンサルの仕事を始め、指導実績は企業・官公庁から教育・福祉・医療の分野にまで及びます。

## TA（交流分析）とは

TA（トランザクショナルアナリシス）とは精神分析の創始者として有名なフロイトの流れをくむ、エリック・バーン博士（アメリカ1910～1970）によって開発された新しい臨床心理学の分析システムです。日本では交流分析として知られ、その狙いとするところは「自律性を達成すること」にあります。カウンセリングや自己分析、人材育成、メンタルコントロール、メンタルヘルス、幼児教育など、様々な場面で活用できる心理学です。

TAにより、パーソナリティー（自己・他者）が明確になり、改善点やもっと伸ばすべき点がわかるようになります。また、総合的なコミュニケーション法（自己・他者）や、感情のコントロール法がわかるようになります。

## 仕事を始めるきっかけと、エサレンの経験

私は以前、広告代理店に勤務し結婚して家庭に入り、夫を30才で亡くしました。そこで職を探している時に、岡野先生にお会いしたのが、今の人材育成の仕事始めるきっかけでした。先生は、日本に心理学の一分野であるTAを治療分野から産業教育（組織の人材育成）へ広めたメンバーのお一人でした。

先生は東京で研究所を持ち、有数の企業のリーダーシップ研修を手掛けていました。

30代はTA、その他隣接する関連領域の勉強に励みました。そして1984年・1987年の2度にわたり米国カリフォルニア州にあるエサレン研究所に行く機会を得ました。エサレン研究所は「人間性回復運動」の拠点といわれ、自然豊かな風光明媚な広い敷地にあります。

1980年代のアメリカ経済は変化や競争が激しく、心身症や神経症の問題が発生し始めた時期でした。そうした中、日本の「禅」にも通じますが、「人間の本来もっている能力をとりもどし、変化が激しい世の中であっても、おれない軸、本質」を求める研究が盛んになりました。

エサレンでは、森の中で五感を研ぎ澄ます体験や、束縛から解き放たれ自分の中にある主体性に気づくワークなどを体験しました。

未だ来ない「未来への不安」や変えようもない「過去の後悔」にエネルギーを費やし、“今、ここ”（現在のこの場にある自分）を感じ、楽しめない、集中出来ない人もいます。



▲エサレン研究所にて

“今”を生きる事の大切さを実感しました。

また、欧米での「個人主義」(利己主義ではない)の本当の意味を知りました。「あなたはあなたであり、私は私。人格も考え方も違います。よって、主張も議論もしましょう」。

そして相手を尊重し、努めてコミュニケーションをとる事で相手を理解するというのが、欧米での「個人主義」の考え方です。

エサレンでは週に2回、肉が、他の日は敷地の農園で採れた野菜中心の食事が出され、10日間程過ごしました。ヨーロッパからは、バケーションを利用して3ヶ月間滞在する方々もいました。エサレンをとおして、人間が本来持っている動物的感が研ぎ澄まされたような気がしました。

TAは広く企業研修でも導入され、JALやディズニーランドでも企業研修に活用されていると聞いています。

## ストローク

TAの中に「ストローク」という考え方があります。

「ストローク」とは、相手(クライアント、部下など)に関心を持ち、存在や言動を認めているという事を具体的に示す行為をいいます。例えば、リーダーが、部下の小さな積み重ねの努力を認め、褒めたり関心を持つ事で、部下のモチベーションが高まり、やる気が引き出されるのです。

人は誰でも認められたい存在であり、自分も含めて相手を認めることが大切です。CS(顧客満足)にも応用できます。顧客の満足をかなえるには、顧客が何を望み、何をしたら満足するのか、関心を持って接し働きかけること、全てはそこからスタートします。

## リーダーは「メンター」的存在に

研修では、積極的に発言するためには「Iメッセージ」を使いましょうと社員にアドバイスしています。「私はこう感じていますが、どうで

しょうか?」と提案できる社員になっていただきたいと思います。

一方、管理者・経営者には、お客様の声を聴き、毎日お客さまと向き合っている現場の社員の意見・声を聴くべきです。それには社内で自由に提言できる雰囲気づくりが必要です。上司は、良き指導者であり、優れた助言者である「メンター」的な目標となれる存在でありたいものです。若い社員は職場内外で「メンター」を探し自分から積極的に近づき相談したり助言をもらったりすることが必要ではないかと思っています。



▲研修の様子

## 「個人の生き生き度が組織の生き生き度」

15、6年前から、役所等でキャリア開発の研修もさせていただいています。

自分を主体にして人生と仕事との位置付けを考えていくものです。会社に入社したとき、10年後、結婚した時、昇格した時など、人生の節目でキャリアプランを考え、自己の資源(リソース)を棚卸してみるのです。

そこで、「キャリア・アンカー」の考えが肝心となります、自分が仕事をするうえで絶対に捨てられない価値観を知ることです。「キャリア・アンカー」は大きく8つのカテゴリー(①専門・職能別<sup>\*</sup>コンピタンス、②全般管理コンピタンス、③自律・独立、④保証・安定、⑤起業家的創造性、⑥奉仕・社会貢献、⑦純粋な挑戦、⑧生活様式)になります。

※コンピタンスとは、有能さや成果を生み出す能力



例えば、私の「アンカー」は「自律・独立」なので、たとえ収入が上がっても組織に属するより、自分のやりたいように思うように仕事する方が自分らしく、最も能力が発揮できると思っています。自分の「アンカー」を知ったうえで仕事ができれば、一人ひとりが能力を最大限に発揮できます。

キャリア開発は日本には2000年頃から大手企業を中心に導入されてきました。会社のためではなく自分が主役であり、この仕事からどんな能力を身につけ、逆にどんなスキルを磨く必要があるのかを導き出すもので、個々の社員が仕事を通して成長するのだという意識を持つことにより組織も強くなります。

個が輝く組織づくり、「個人の生き生き度が組織の生き生き度」に繋がると考えます。その個々の能力を最大限に引き出すために手助けするのが私の仕事かと思っています

### 個人に焦点をあてた研修にも挑戦

これまで、企業や自治体等の組織で研修教育を行ってきましたが、今後は心理学をベースに個人に焦点をあてた研修にも力を注ぎたいと思っています。最近、家庭での問題が多く、十代の犯罪も増えてきています。子供と親との愛情や教育等の在り方について、精一杯社会に貢献できたらと思います。これからを担う若い人々を可能性をもって社会に送り出したいのです。

心と体が健康で自分が望む生き方をしていくためには、日常生活における物事の捉え方、行動の仕方、対人関係（家族、職場、友人）のあり方について、改めて考えてみましょう。自分への気づきを深めることで、もっと楽しく、より自分らしい生き方ができるかもしれません。

E-mail [k-oshiro@sa2.so-net.ne.jp](mailto:k-oshiro@sa2.so-net.ne.jp)

HP <http://www012.upp.so-net.ne.jp/consul/>

ブログ <http://jinzai.ti-da.net/>

## 大城 久美子氏 プロフィール

広告代理店の㈱博報堂那覇支社、を経て1980年より人材育成コンサルタントの仕事始める。

社会産業教育研究所（東京）にてTA（交流分析）、組織行動理論を学び1984年・1987年の2度にわたり米国カリフォルニア州にあるエサレン研究所で心理療法を学ぶ。

カナダのトロント大学、トニー・キー博士よりゲシュタルト療法を、米国サンフランシスコ在のセラピストジーン・モイ氏より家族療法を数回に亘り学ぶ。

組織と個の共に生きる関わり、顧客満足度の向上を目指し、32年の指導実績は企業・官公庁から教育・福祉・医療の分野にまで及び、精神分析を用いた手法で分かりやすく実践的な研修を企画・実施中。

沖縄女子短期大学非常勤講師（1992年～2008年）  
私立中学・高校のカウンセリング室担当（2003年～2006年）

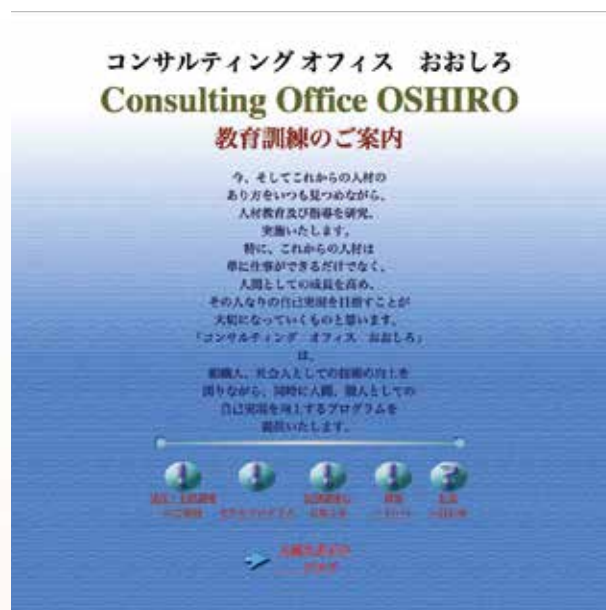
雇用能力開発機構「キャリア・コンサルタント養成講座」の講師担当

キャリア・カウンセラー（日本能率協会マネジメントセンター認定）

日本交流分析学会会員

日本キャリア・カウンセリング研究会会員

日本キャリアデザイン学会会員



コンサルティングオフィス おおしろ  
Consulting Office OSHIRO  
教育訓練のご案内

今、そしてこれからの人材のあり方をいつも見つめながら、人材教育及び指導を研究、実践いたします。

特に、これからの人材は単に仕事ができるだけでなく、人間としての成長を高め、その人なりの自己実現を目標することが大切になっていくものと思います。「コンサルティング・オフィス・おおしろ」は、新入社員、社会人としての指導の向上を期しながら、同時に人間、個人としての自己実現を促すプログラムを提供いたします。

① 基礎・土壌構築  
② 実践・土壌構築  
③ 実践・土壌構築  
④ 実践・土壌構築  
⑤ 実践・土壌構築

大城久美子氏  
代表取締役

# けいざい 風水

## 社会保険費の財源

### 制度維持へ対応急務

2013年10月1日に消費税増税が閣議決定されました。われわれの生活に直接影響するため、消費者の関心も高いものと思われます。政府は、増税の目的を「社会保障の安定財源の確保」としています。

社会保障は、生活保護なども含みますが、一般的には社会保険としてわれわれの生活を支えてくれています。

社会保険は公的な「年金」「医療保険(健保、国保等)」「介護保険」「雇用保険」などをいいます。医療保険でいうと、日本では国民皆保険制度が整えられていますので、いつでもどこでも質の高い医療サービスを定価の約3割で受けることができます。このような“安心”を享受できる国は世界中どこを見渡してもないことでしょう。

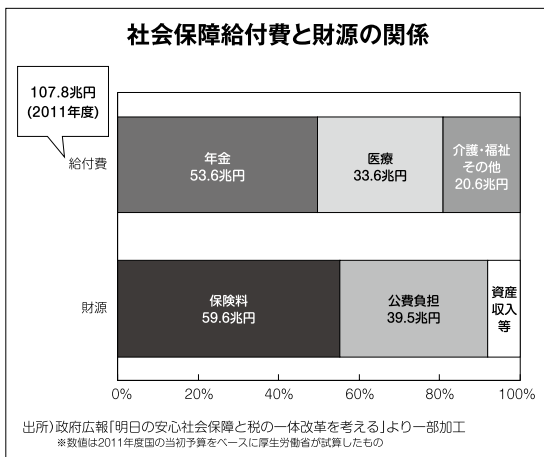
一方で、その社会保障システムを支えるために、社会保険料という形で国民一人一人が負担をしています。例えば、サラリーマンでいうと、一人一人の報酬額\*に対し約30%の金額を社会保険料として納めています(大部分が労使折半なので、個人としてはその約半分近くが給与天引きで支払われている)。

このように、決して少なくない金額を保険料として納めているにもかかわらず、100兆円を超える社会保障給付費のうち、われわれが支払う保険料で賄える部分は5割強であり、4割近くの税金が投入されています。

人口構成が急速に変化していく中、このセーフティネットをどのように維持していけるのかを税負担のみならず、規制緩和なども含め、国民全員で考えていくことが求められています。

\*報酬額とは社会保険料算定のための一定の基準があり毎月の給与額と同一ではない。

(おきぎん経済研究所 研究員 上地 良平)



## 西原西地区の活性化

### モノレール延伸に期待

西原町は、これまで2000年3月策定の「西原町都市基本計画」および12年3月策定の「都市計画マスタープラン」に基づき「文教のまち」としてふさわしい機能配置や庁舎等複合施設の移転計画、中城湾港沿いのマリンタウン整備などを積極的に進めてきました。

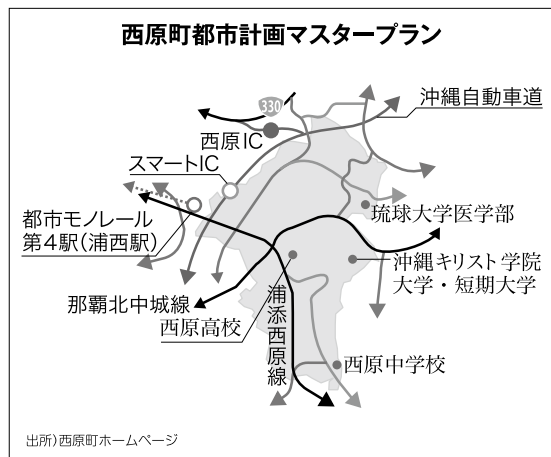
その計画を進めるに当たり、沖縄都市モノレールにおいて首里-浦西区間の延伸計画が許可され、19年春の開通を目指すとの発表があったことから、西原西地区(徳佐田、翁長、坂田、棚原地域)の発展が期待されています。

同地区は、西原町の北西部に位置しており、近年「県道浦添西原線」および「県道那覇北中城線」の道路拡張整備計画に伴い、「西原西地区土地区画整理事業」が行われている場所です。

また、「都市計画マスタープラン」において西原町の商業補完機能を担う中核的な商業地域(サブ核)としても位置付けられているほか、当該地区周辺には琉球大学、沖縄キリスト教学院などの教育機関や琉球大学医学部附属病院の大型医療施設もあることから、居住環境として良好な場所と言えます。

同地区は、沖縄都市モノレール延伸に伴い、西原町の「新しい玄関口」という役割を担う重要な地域となります。新駅周辺の商業地域や新たな居住地域の開発、周辺道路拡張整備も併せた交通利便性向上などにより、同地区が西原町の経済活性を支える地域として、発展していくことが期待されています。

(沖縄銀行 坂田支店長 山里 将一郎)



## ❖ 那覇市農連市場地区

### 再開発へ期待

那覇市壺屋には、「サンライズなは商店街（正式名称：新栄通り商店街振興組合）」があります。同商店街は、通り会結成後65年近くの歴史ある商店街で、「平和通り」「えびす通り」「浮島通り」「新天地市場本通り」「太平通り」等、多くの通りと交差しながら開南バス停へとたどり着く道筋となっており、農連市場や公設市場の近隣に位置しています。

歴史の長い商店街ではありますが、大型商業施設やインターネット販売との競合もあり、近年は地元購買率が全体として減少傾向にあります。その影響等もあり、商店街周辺の人口や通行量の減少等が進み、近年は、経営者の高齢化や後継者問題なども課題となってきています。

その厳しい現状から脱し、同地区を活性化させるべく、那覇市農連市場地区防災街区整備事業準備組合が、2013年9月に「組合設立」と「再開発の事業計画」の認可申請を那覇市に提出しました。建物の老朽化、道路等の都市基盤が未整備である農連市場地区を、優れた防災性能を有する建築ならびに防災公共施設を整備することによって、安全・快適にぎわいのある中心市街地へと再生させることが同事業の目的となっています。事業規模は11年度に完了した「那覇市牧志・安里地区市街地再開発事業」と同規模で、約3.2畝内に地権者用の住宅棟や100台規模の屋上駐車機能を有した店舗棟、約70戸の市営住宅棟、100戸規模の分譲住宅、保育所、300台規模の駐車場棟施設が整備される予定となっています。

この再開発をチャンスとして生かし、「開南」側から国際通りへとつながる商店街や各通り会が「独自の魅力」を創出することで、多くの県民、市民が足を運ぶ中心市街地へと発展することを期待しています。

（沖縄銀行 壺屋支店長 大濱 義喜）

開南線側から見た、農連市場地区のイメージ図



出所)沖縄県ホームページ

## ❖ 県内の賃料動向

### 新築、中古とも上昇

弊社（おきぎん経済研究所）が発表した「おきぎん賃料動向ネットワーク調査（2013年）」によると、県内の賃貸住宅の平均賃料は、新築物件、中古物件ともに「1R～1LDK」、「2DK～2LDK」、「3DK～3LDK」の全てのタイプで上昇しています。

新築物件については、LDKの広い物件の人気の年々高まっていることなどによる物件の拡大化や、賃料相場の高い市街地開発地区に人気が集まっていることが平均賃料上昇の要因として考えられます。

中古物件については、新築同様、広い物件や設備の充実した物件が増加していることに加え、付加価値（エアコン、インターネット無料など）を物件に追加し、家賃を引下げせずに稼働率を維持しているケースが増加していることなどが要因として挙げられます。

また、入居者の需要を捉えたリノベーション\*などを行うことで、賃料を上げても入居が決まるというケースも増加しており、中古物件の平均賃料を押し上げる要因の一つとなっています。

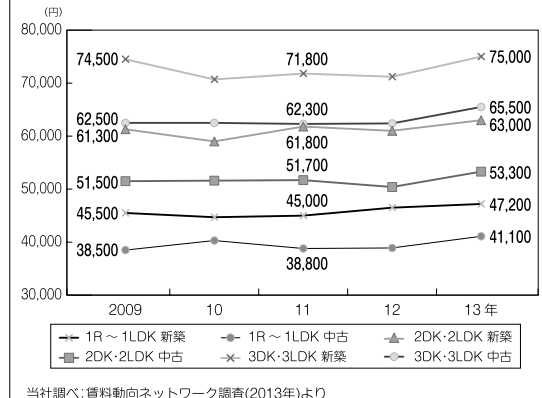
今回の調査結果の背景を考えると、居住者が財布のひもを緩めているというよりも、オーナーと不動産業者のさまざまな工夫が、うまく需要を喚起しており、その努力が賃料上昇に結び付いているという印象を強く受けます。

今後、不動産市場においても他のマーケット同様、個々の細かいニーズに対応することで個性的な物件が増え、不動産市場がますます活性化していくことを期待したいと思います。

※リノベーション……改修工事による間取りの変更など、リフォームよりも大規模に手を加える方法（例2DK⇒1LDKへ、3DK⇒2LDKへ）

（おきぎん経済研究所 研究員 喜瀬 真人）

県内賃貸物件の平均賃料の推移



## 絶対に捨てられない価値観(アンカー)

師走は忘年会、1月は新年会で酒を酌み交わしているうちに、七草、鏡開き、成人の日、旧正月とあっという間に日が過ぎてしまいましたが、読者の皆様、お身体は大丈夫でしょうか、ご自愛ください。

県内景況は、引き続き拡大の動きが強まっており、消費税増税を見越した駆け込み需要も一部業種で見られます。経営者にとっては、「価格転嫁対策」や「情報システムの改訂問題」、「駆け込み需要の取り込み」等々の増税準備で頭が痛いかと思いますが、見方によっては自社の経営を見直す絶好の機会であると捉えることもできるのではないのでしょうか。

さて、今月の「黄金言葉」は、コンサルティング オフィス おおしろの大城久美子先生にご登壇していただきました。

TA（交流分析）など精神分析の理論を経営に、また、日常生活に応用する取り組みをされ、指導実績は企業・官公庁から教育・福祉・医療の分野にまで及ばれています。

先生の米国カリフォルニアでの研修体験談も興味深かったのですが、「キャリア・アンカー」のお話が特に印象に残りました。「自分が仕事をするうえで絶対に捨てられない価値観（アンカー）は何か、自分を知ることで、はじめて他者を理解できる。」というお言葉に、改めて、自分自身、振りかえさせられると同時に、沖縄経済の在り方を思慮するうえでも、このお言葉は当てはまるのかなと、ふと考えさせられました。

沖縄の経済的課題を解決するには、まずは現況をしっかりと認識することが大切であり、弊社が少しでもお役に立てればと、改めて地元シンクタンクとしての責務を実感した次第です。

最後に、平成26年1月に弊社が創立10周年を無事迎えることができましたことを、この場をかりて厚くお礼申し上げます。

(株)おきぎん経済研究所 代表取締役社長 出村郁雄)